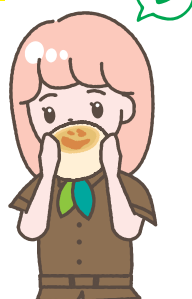


里山の恵みを活かした 暮らしと粉食



▲ 見事な彫刻が施された鬼無里の屋台
【市指定文化財】（鬼無里ふるさと資料館）



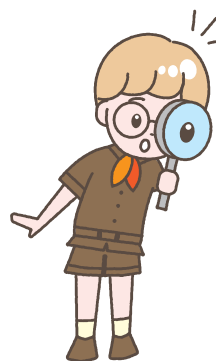
▲ 麻の収穫の様子
（鬼無里：昭和初期）

作物と文化・風景

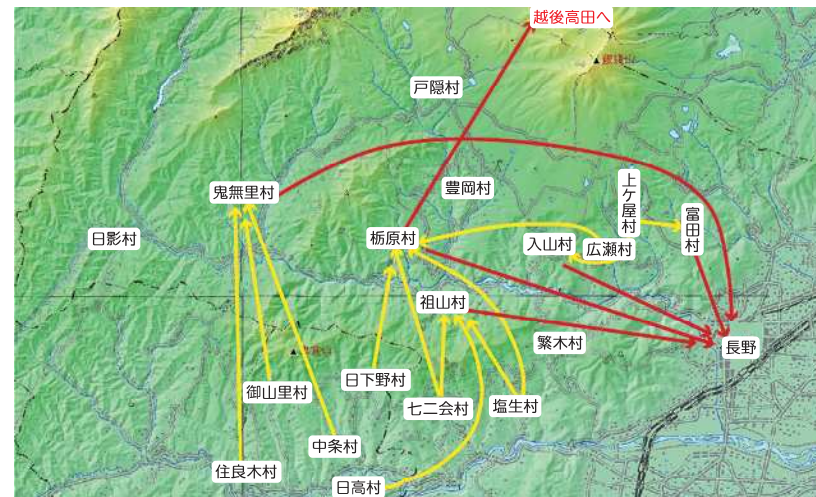
近世から近代にかけ、長野市では米や麦はもとより、様々な作物がつくられてきました。斜面が多い山間地域では麻や和紙などが盛んにつくられ、それによって豊かになったところでは、細やかな彫刻を施した祭礼屋台をつくるなど豊かな文化が育まれてきました。

近代の長野県は「養蚕王国」と言われ、長野市でも多くの家が蚕を飼って糸をとる養蚕製糸業に関わっていました。養蚕が不振になった後は、桑畑を果樹園に変え、りんごや桃などの果樹栽培が盛んとなりました。

▼ 繭かき作業の様子（中条：昭和30年代）



▼ 明治初期の和紙と原料の流通状況

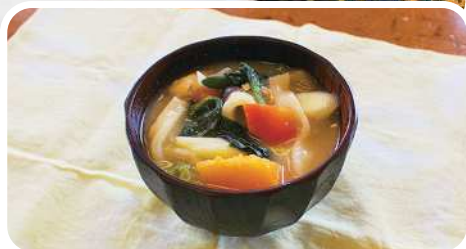
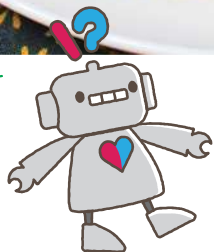


和紙 こうぞ（和紙の原料）

Story 7 里山の恵みを活かした暮らしと粉食



▲ かねつけ



▲ おぶっこ

食文化

長野市では市域の自然環境と生産生業を背景に、特徴的な食文化が育まれてきました。特に、粉食文化はかつての日常的食事、行事食として根付いていました。

日常的には、米の残りと小麦粉でかねつけを作ったり、だんご汁、ひんのべといった粉食を作り、オコビレ^{かん しよく}（間食）にせんべいなどを食べていました。来客時などにはおぶっこ^{めん}などの麺類を出していました。

Story 7 里山の恵みを活かした暮らしと粉食

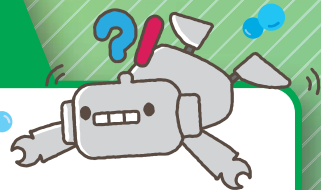
お盆などの行事にはおやきが食べられました。おやきの作り方には、地域や家ごとに違いがあり、市内には様々なタイプのおやきがあります。このような小麦の粉食だけでなく、まゆだま、やしょうまなど、米粉を使った行事食も親しまれています。



▲ にらせんべい



▲ おやき



川と共に生きる —千曲川水系と暮らし—

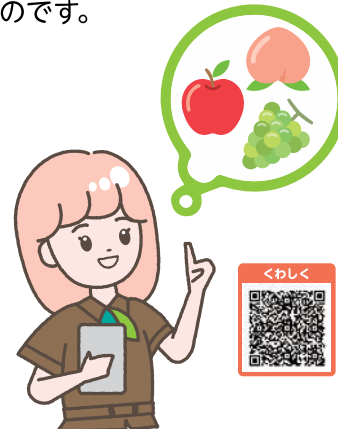


▲ 四ツ手綱による川漁風景

長野市は千曲川の中流域にあたり、犀川・裾花川といった大小の河川が千曲川に流れ込む地形上にあります。そのために度々水害を経験する一方で、氾濫によって豊かな土壌が育てられました。また、盆地を流れる水を活用するために用水網が発達し、鐘鑄堰をはじめとする用水が造られました。

長野盆地に流れ込む河川は扇状地を形成していますが、そこでは扇状地の水はけの良さや気温差を利用した果樹栽培が盛んです。またかつては河川で川魚の漁が行われていました。長野では、川の脅威にさらされながらも川のめぐみを活かした暮らしが営まれてきたのです。

▼ 上空から見た千曲川（昭和50年代）



▲ 川漁の道具（投網）
（長野市立博物館蔵）



▲ 川漁の道具（うけ）
（長野市立博物館蔵）

長野市に伝わる 多様な祭礼・行事



盆 地とそれを取り囲む山地からなる長野市の暮らしが、さまざまな自然環境に応じて多様なように、この地で育まれた文化も多様です。暮らしの節目に行われる民俗行事やお祭りも同様です。そのなかで長野市を特徴づける、秋の夜空を彩る煙火、どんど焼きと一緒に行われる道祖神行事、市内じゅうで行われる獅子舞について紹介します。



©長野商工会議所

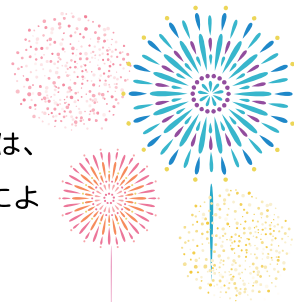
秋の夜空を彩る煙火（花火）

市内岩石町にある西宮神社のえびす講にあわせ、毎年11月に打ち上げられるえびす講煙火に代表されるように、市内では神社祭礼や地域行事に伴って花火を打ち上げるところが多くみられます。

◀ えびす講煙火

明治32年（1899）に西宮神社のえびす講に合わせて花火が打ち上げられたことが始まりとされるえびす講煙火は、秋の花火として全国にも知られる花火大会です。

新諏訪町・西長野・茂菅・安茂里の4ヶ所では、
今も花火製造業者の指導を受けた地元住民による
手作りの仕掛け花火が上げられています。



◀ 新諏訪町の瓜割煙火

（市選択無形民俗文化財）9月23日開催

新諏訪町の諏訪神社秋祭りに奉納されます。天保7年（1836）に疫病除けのために奉納したのが始まりとされる由緒ある煙火です。



◀ 犀川神社の杜煙火

（県指定無形民俗文化財）9月21日開催

安茂里小市の犀川神社秋祭りに奉納される杜煙火は、文政7年（1824）に煙火を奉納した記録が残されています。



◀ 加茂煙火

9月16日開催

西長野の加茂神社秋祭りに奉納される加茂煙火も、明治39年（1906）発足と100年以上の歴史があります。

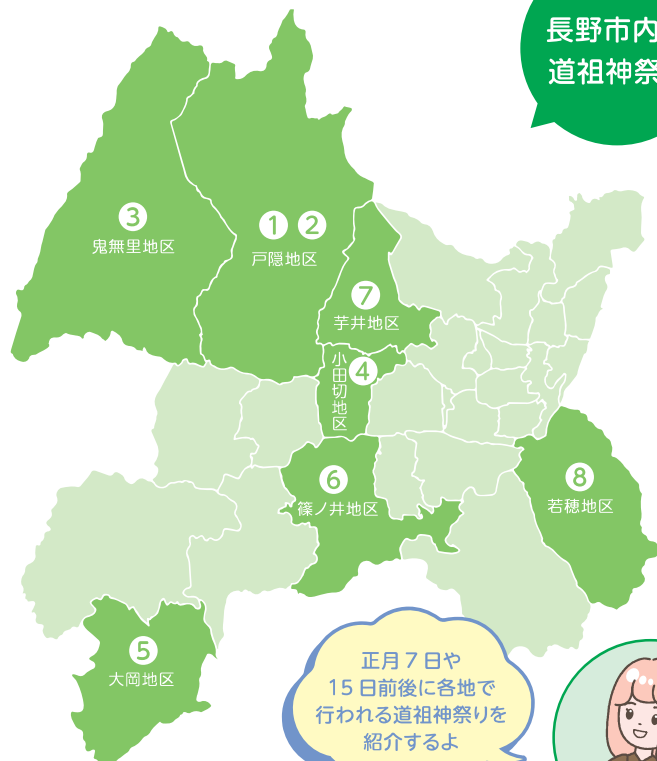


◀ 飯縄煙火

9月28日開催

茂菅の飯縄神社の秋祭りに飯縄煙火保存会によって奉納される煙火も、明治末期から始まったとされる歴史ある煙火です。

長野市内の
道祖神祭り



正月7日や
15日前後に各地で
行われる道祖神祭りを
紹介するよ



① 戸隠田頭の
双体道祖神碑

戸隠地区では
道祖神碑をどんど
焼きの火であぶる
ところが見られま
す。田頭の道祖神
碑は左側に焦げ
跡が見られます。



② 戸隠追通の
セーノカミの勧進

追通では正月15日前後の早朝から、
子どもたちがセーノカミ（道祖神）の勧
進と称し、オンマラを持って各戸を回っ
て祝儀をもら
います。



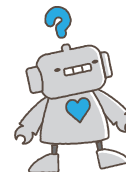
③ 鬼無里財又の^{さい また}人形道祖神

どんど焼きの日には道祖神碑の前に
ヌルデで作った道祖神人形が供えられ
ます。



④ 小田切の^{お た ぎり}人形道祖神

小田切の道祖神人形は松の枝で作ら
れます。



⑤ 大岡^{おお おか あし の じり}芦ノ尻の道祖神
【県指定無形民俗文化財】

正月7日に集落の人々がしめ飾りを持
ち寄り、道祖神の石碑を覆うように巨
大な道祖神の顔を造ります。道祖神は
これから一年、集
落にやってくる災
厄をその厳しい顔
で退治します。



⑥ 塩崎越組の^{しお さき こし}人形道祖神
【県指定無形民俗文化財】

巨大な男根を両手で抱える越組のオ
スガタ、上半身は女性で下半身は男性
の平組のオンマラサマ、ヨメとモコと呼
ばれる男女一対の人形を作って燃やす
東谷組のカンタサン。篠ノ井塩崎ではど
んど焼きの時
に大きな人形
を作って一緒に
燃やすところが
見られます。



⑦ 茅井^{い も い ぐん だり}軍足の勧進用道祖神

茅井でもセー
ノカミの勧進が行
われます。軍足で
は男女一対の道
祖神が描かれた
お宮を持って家々
を回りました。

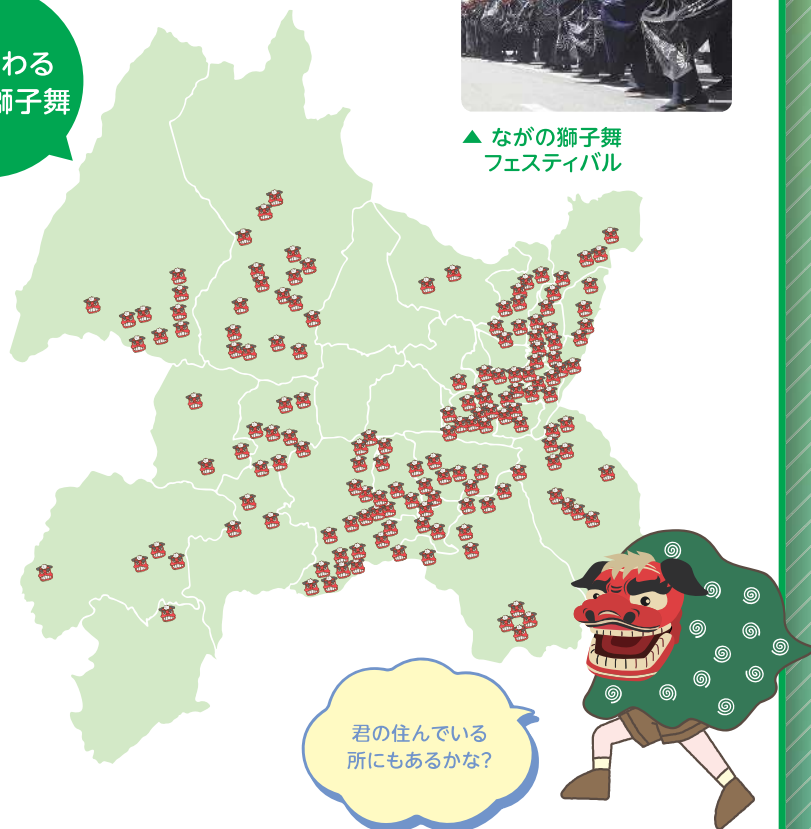


⑧ 若穂保科の^{わ 穂 ぼ け}人形道祖神

保科では縁結びを願う家で、正月15
日の早朝に道祖神人形を供えました。



今に伝わる
地域の獅子舞



君の住んでいる
所にもあるかな？



▲ ながの獅子舞
フェスティバル

獅 子舞は現在も200を超える団体で伝承され、地元神社の春や秋の例祭で奉納されています。北信に多く見られる獅子舞ですが、これだけの数の獅子舞が残されているのは長野市の特徴と言えるでしょう。

毎年ゴールデンウィークにはながの獅子舞フェスティバルが開催され、中央通りに数多くの獅子舞がつどいます。

どんど焼きの横で道祖神に
▼ 奉納する戸隠追通の獅子舞



祇園祭で激突する
迫力満点の篠ノ井大獅子

▼ 【市指定無形民俗文化財】



北国街道沿いに建つ石舟地蔵尊の前で舞う若槻田子の獅子舞。7月の石舟地蔵の縁日
▼ に披露される。



まめじま
大豆島風間神社で披露される
獅子の三番叟

▼ 【市選択無形民俗文化財】





ここから各施設の
ホームページを見ることができるよ!



- ▶ 長野市立博物館
- ▶ 真田宝物館
- ▶ 戸隠地質化石博物館
- ▶ 信州新町博物館
- ▶ 鬼無里ふるさと資料館

長野市観光文化部文化財課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 第二庁舎 4 階

TEL.026-224-7013